

たよりIGLをリニューアルしました

「愛とつながり」「人と心を感じる」コミュニティマガジンへ



ながみ けんご
IGLグループ理事長 永見 憲吾

IGLの機関誌「たよりIGL」は、1976年創刊以来、この度で141号を迎えました。1月、5月、9月の年3回の機関誌で、その時その時の出来事を情報提供してまいりました。

この141号の機関誌から紙面を少し変え、よりテーマ性のある、人間味溢れ、温かみのある（愛とつながり、人と心を感じる）コミュニケーションマガジンに変えてまいりたいと思います。

読者である施設の利用者さまとご家族や、保護者・学生・教職員の皆さんなどIGLに関わってくださる方々と、私たちの事業や活動の関わり、つながりを盛り込んだ機関誌となっていくことを願っております。

そこで、IGLグループはそもそも何をを目指しているかの原点から改めて記してまいりたいと思います。

Love has just begun.
It will be stronger and never die ...

はじめに愛があった。

IGLの理念は、隣人愛

「自分を愛するように、あなたの隣人を愛しなさい」
すべての人は、それぞれの貴重な価値をもって生きています。
そして、愛は、お互いの価値を認めあうことから生まれます。自らを低くして人の存在に感謝し、その人らしく成長すること、その人らしく生きることをささえる中で、共に喜びを分かちあい、私たちも成長し、自らの価値と能力を発揮することができます。

環境は人をつくる しかし、最大の環境は人である

IGLは、利用する人、生活する人、働く人が気持ちよく、明るい希望をもって過ごせる。まるで一本一本の花がそれぞれの個性を輝かせ、ささえあう花束のような環境づくりをめざしています。
最大の環境である人が生きいきとして隣人愛のこころを実践し、清潔感あふれるあたたかい環境がこれをつつみこむ、これがIGLの願う「もてなし」と考えています。

IGLグループは、多角的なアプローチを用いて幅広い事業展開を行っています。長年の経験から、現代の社会環境では一つの事業に固執するだけでは成果を上げられないと認識しています。そのため、理念を基に複数の事業を展開し、アメンバー型の事業発展戦略を取っています。

現在、IGLグループには1,500人の教職員が在籍しており、教職員は既存の事業を守りつつ、継続的な改善を進めています。同時に、変化する時代に対応するため、新しい事業の創出にも力を注いでいます。これらの取り組みを成功させるためには、組織的なアプローチが必要であり、プロジェクトチームを結成し、情報共有を徹底して行うことが重要です。

IGLグループは、変化する環境に適応し続けるために、柔軟性と創造性を大切に、持続可能な発展を目指しています。皆様方のご協力とサポートに感謝し、共に未来への成長を実現していくことを願っています。

乳幼児から高齢者にいたる人生の理想郷をめざす

教育・福祉・医療・健康事業のIGLグループ

IGLグループは、広島市安佐南区に本拠を置き、60余りの事業所を展開する、教育・福祉・医療・健康事業の総合グループです。キリスト教精神に立脚し、<愛をもって人生にエールをおくる>をテーマに、すべての人が生ある喜びを分かちあえる理想郷づくりをめざして、1969年の創立以来、地域のみなさまとともに歩んでいます。



心理カウンセラー川本先生のコラム 愛とつながり



川本喜久子先生（公認心理師・精神保健福祉士）
IGL医療福祉専門学校のスクールカウンセラーとして、学生ひとりひとりに寄り添う支援を行っています。

「レジリエンス」とは、困難をしなやかに乗り越え回復する力のことで、「回復力」「復元力」などと訳されます。1950年代におこなわれたカウアイ研究では、レジリエンスの高い人には、「子どもの頃に親身にケアしてくれる人がいた」とされています。それは親でなくとも、祖父母や学校の先生でも構わず、「あなたはそのままでもいい、あなたを大事に思っている」というメッセージを伝えていたことが、逆境に負けない心を育てたのではないかとされています。

現代は不安が渦巻く、先の見えない社会ですが、レジリエンスを高めるには、第一に、「自分は大丈夫」という感覚を育てていくこと、第二に、小さくてもいいので、つながりをたくさん持つことが重要です。自己肯定感を高めることは、大人になってからでも可能です。そして、何かあった時に相談できる人をつくっておくこと、「相談希求力」を意識的に持つように心がけましょう。